

徒と接する時間より長いし、濃密な付き合いをすからやっぱり思い入れは強いよね。この前の退任セレモニー(空手道部主催の目下先生の退任セレモニー)が2月に行われ、同窓会も参加させていただきました。(でもOBで子どももいる人も結婚している人も合わせて二百人くらい来てくれて、<形>までやってくれたしね。そういう意味でも空手道って個人的にも教師としても大きな存在だったかな。

—ではその空手道を目下先生はいつ頃からやってらっしゃったのですか。
中学校3年生の時から、道場ですとやっていったんだよ。

—やはり空手道をやっていたことがきっかけで教師になろうと思われたのですか。

いや、教師を目指そうと思った理由はね、そこじゃないんだよ。実は僕は中学卒業してから、二年間就職してたんだよ。中学校3年生の時は成績も上位の方にいたから当然周りは進学するものだと思うっていたらしいけ

ど。色々あって、世を拗ねたりしてたから働きながら定時制で勉強するって、自分で何でもやろうとしたんだけど、難しいなと。自分は甘かったなと思っただよ。それで高校を受けなおしたんだよ。

—それは中学浪人みたいな形だったんですか。

そう、今でいう過年度生みたいな形かな。それがきっかけで大学まで行こうと思ったんだよ。

—それは入学したところから、という事ですか。

そうだね。僕は二年間だけど人生でロスタイムがあったわけだから、そういう子を出したくなかったのかな。僕もあの当時迷っていた時だったから担任の先生に就職せずに高校行けよって強く推されていたら違ったかもしれない。そういう事がきっかけで大学に行ける環境があるなら大学に行つた方がいいなと思って、その為には教師になろうと思った。自分で何でも出来

ると思わず、親に甘えて大学進学し

た方が良いなと思うんだ。

—出来るだけで自身のような生徒を出さない為にといい思いですか。

僕自身を振り返った時に、出来なかったわけだからさ。それで教師になろうと思ったよね。人生のターニングポイントでアドバイス出来る立場にいれば良いなと。そうするとやっぱり教師かなと思っただよ。

—教師になられて今振り返ってみて後悔はありませんか。

後悔は全くないね。強いて言えば高校時代とかにもっと勉強しておけば良かったなと思うくらいかな。運動ばかりだったから。本もほとんど読まなかったし。読むようになったのは大学を出てからだからね。

—来年度(インタビュー当時)以降はどうなさるんですか。

書類上は非常勤で役割的には師範として空手道部を教えますよ。二十二年連続インターハイ出場がかかっているしね。

—これからも鶴ヶ丘に携わって頂けるといい事ですね。

身体を害さなければね。だからまだ数年はそういう形でやっていけると思っよ。

—では最後に、目下先生にとって鶴ヶ丘とはなんですか。

僕を育て、高めてくれたところだね。生徒と一緒に四十数年成長できたことですね。

—ありがとうございました。

